

第15回

海上技術安全研究所 講演会

船舶ビッグデータがもたらす 海事イノベーション

11月13日(金) 13:30~17:00

会場 JA共済ビル
カンファレンスホール

特別講演

「船舶ビッグデータによる海事産業の変革」

国土交通省海事局長 坂下広朗

「海運におけるビッグデータの活用とIoT」

日本郵船(株)専務経営委員 田中康夫

「IMO/MEPC の仕組み
～政府間交渉を国際競争に活用するためには～」

(一財)日本船舶技術研究協会基準・規格グループ長 斎藤英明

研究講演

「海上交通のデータ解析と安全設計」

海洋リスク評価系リスク解析研究グループ長 伊藤博子

「構造安全評価と船上モニタリングシステム」

構造安全評価系長 有馬俊朗

「次世代海洋資源調査技術の開発」

研究企画調整主幹 田村兼吉



事前登録制

入場無料

【お申込み方法】 右のQRコードを読み取って海技研サイトにアクセスするか、ウェブページ http://www.nmri.go.jp/cgi-bin/nmri_news/topics.cgi#243 からお申込みください。

【会場アクセス】 東京メトロ有楽町線、半蔵門線、南北線 「永田町駅」4番出口 徒歩2分
東京都千代田区平河町2-7-9 JA共済ビル1F



第15回 海上技術安全研究所 講演会のご案内

— 船舶ビッグデータがもたらす海事イノベーション —

謹啓、皆様方におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

第15回となる当研究所の講演会は、ビッグデータやICT(情報通信技術)の海事産業への活用、ロボット技術の進展などを踏まえ、我が国海事産業の革新、発展に焦点を当てています。特別講演として、国土交通省海事局長の坂下広朗様に「船舶ビッグデータによる海事産業の変革」、日本郵船株式会社専務経営委員の田中康夫様に「海運におけるビッグデータの活用とIoT」、さらに一般財団法人日本船舶技術研究協会の斎藤英明様に「IMO/MEPCの仕組み～政府間交渉を国際競争に活用するためには～」と題して講演していただきます。

研究講演では、当所の研究者3名がビッグデータやICTの活用、さらにAUV(自律型無人探査機)の開発などについて講演いたします。

ご多忙中とは存じますが、皆様お誘い合わせの上ご来場賜り、忌憚のない意見と励ましのお言葉をいただきたくご案内申し上げます。

謹白

国立研究開発法人 海上技術安全研究所 理事長 茂里一紘

講演プログラム

開場 13:00 開会 13:30

ご挨拶 海上技術安全研究所 理事長 茂里一紘

【特別講演】

「船舶ビッグデータによる海事産業の変革」 国土交通省海事局長 坂下広朗

「海運におけるビッグデータの活用とIoT」 日本郵船(株)専務経営委員 田中康夫

「IMO/MEPCの仕組み～政府間交渉を国際競争に活用するためには～」
(一財)日本船舶技術研究協会基準・規格グループ長 斎藤英明

【研究講演】

「海上交通のデータ解析と安全設計」 海洋リスク評価系リスク解析研究グループ長 伊藤博子
海上交通事故については長年記録が残されており、当所ではこれをテキストデータとして活用し事故実態を解析してきました。一方、かつて大規模かつ長期的な観測が困難であった交通実態もAIS普及に伴い高い網羅率で観測できるようになりました。このような海上交通に係る各種データを解析する取り組み、さらに安全な交通環境を目指した新しい交通ルールを設計する取り組みについて紹介します。

「構造安全評価と船上モニタリングシステム」 構造安全評価系長 有馬俊朗
船舶の構造安全性の確保を目的とする基準及び規則並びに評価技術の最新動向等を紹介いたします。また、陸上のデータセンターとの連携と国際標準化への取り組みが進んでいます船舶の運航モニタリング及び性能モニタリングとの統合を念頭に置いた船体強度モニタリングシステムの研究開発動向を紹介いたします。

「次世代海洋資源調査技術の開発」 研究企画調整主幹 田村兼吉
海技研は昨年度より「戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)」の「次世代海洋資源調査技術(海のジパング計画)」に参画し、小型で機能を絞った低価格な自律型無人探査機(AUV)の開発と、AUVを複数機運用することによる効率的な資源調査技術の研究開発を行っています。こうした研究開発計画の概要と、これが目指す出口戦略について紹介します。